

東大和市子ども・子育て支援会議 第2回議事録

会 議 名	平成26年度 第2回 東大和市子ども・子育て支援会議
開 催 日 時	平成26年7月1日(火) 14:00～16:15
開 催 場 所	東大和市立中央公民館2階 視聴覚室
委 員	(出席者)佐々木委員、網干委員、伊藤委員、寺山委員、水上委員、上田委員、坂本委員、片野委員、仲里委員、住吉委員 (欠席者)廣澤委員
事 務 局	榎本(子ども生活部長)、高橋(子育て支援課長)、宮鍋(保育課長)、中村(青少年課長)、渡邊(保育課・保育・幼稚園係長)、恵良(保育課子ども・子育て支援担当主査)、妹尾(保育課・保育・幼稚園係主事)
傍 聴 者	2名
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長挨拶 3. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1)教育・保育等の量の見込みの補正について (2)新制度に係わる基準について <ul style="list-style-type: none"> ・特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営基準 ・地域型保育事業の設備と運営の基準 ・放課後児童健全育成事業の設備と運営の基準 ・支給認定基準 (3)子ども・子育て支援事業計画の骨子案について (4)報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・今後のスケジュールについて ・利用者負担について (5)その他 <ul style="list-style-type: none"> ・次回日程について 6. 閉会
配 付 資 料	<p>[事前配付]</p> <p>資料1 教育・保育等の量の見込みの補正</p> <p>資料2 支給認定・保育認定の基準(案)と市の現状・考え方</p> <p>資料3 東大和市子ども・子育て支援事業計画(骨子案)</p> <p>参考資料 本格施行までの自治体における作業スケジュールイメージ</p> <p>参考資料 利用者負担について</p> <p>[卓上配付]</p> <p>参考資料 子ども・子育て支援新制度 なるほど BOOK(カラー版)</p>
会議の結果及び主要な発言	
事務局 会長	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・保育等の量の見込みの補正について (資料1を説明) 今後、確保策の検討において多少の調整が出てくるかもしれないが、何か意見や質問はあるか。 特に意見がないようなので、量の見込みは資料の通りとして、今後の検討を進めていくこととする。

副会長	<p>いだろうが、東大和市で子育てをする際に、どのような制度や環境が整えられたら、安心してこの地で子育てができるのかという部分について、委員の考えを集約していきたい。大きな枠組みは国で決まっているが、その中で東大和市や自分たちができることがあると思う。我々が関与して、自分たちが必要なものをできるだけ良い形で提供できるようにする機会でもある。</p> <p>公定価格において、市で持つ分は会議を通して決める必要があったり、土曜日の保育の開閉施設を会議で決めたりなど、会議を通して決めることが多くあり、制度を知らないと議論できないのではないかと。ただ、事務局からすべてを話すことも難しいのは分かるが、母親たちが自分で選べる程度に理解しなくては、母親たちは全く分からない状態でのスタートになるのではないかと。</p>
委員	<p>土曜日の開閉や時間などは、園の経営者の判断になると思うが、そこまで踏み込んで言えるのか。言えたとしても、経営者の判断もあるのではないかと。</p>
会長	<p>経営者からの観点から検討する材料が少ない中で、計画がどのような位置付けでどのような性格を持たせるのかを議論するが、新制度は来年4月から始まり、園の運営などはそれぞれの事業者の判断となり、検討結果と同一となるわけではない。難しいのは、利用者と経営者の視点が異なる部分である。</p>
事務局	<p>各施設で保護者からの選択はされるのだろうか、市としてサービス低下は避けなければならぬと考えている。そうした計画作りに協力いただきたい。すべてを一から構築していくわけではない。</p>
会長	<p>細かいニーズに応える細かいメニューを付加していったらどうかと考えている。できるだけ市民が行きやすい範囲で同じようなサービス提供ができればよい。箱ものを新設するのがベストではないと思うし、今ある資源をうまく使い、付加的なメニューを充実させていけば、市民のニーズに応えられるのではないかと。この会議は、それぞれの立場から意見をいただくための会議である。</p>
副会長	<p>サービスもだが質の低下も招いてはいけぬ。現状のままで幼稚園が認定こども園化した場合、値上げせざるを得ないが、会議を通して決める話も出てきている。従来の幼稚園では、保護者の収入で補助金も変わるが、基本的に同一料金であった。新制度では保育園と同様に収入制の応能負担となる。それらを理解した上で、何の施設が増えるのか、足りない部分をどうするのか、どういう方法なら東大和市の教育・保育を守っていけるのかを議論すべきだと考える。</p>
委員	<p>基本的なところでベースは一緒だが、東大和市としての味付けを委員のアイディアで良いものにしていければよいのではないかと。計画骨子案では、具体的にここをPRしたいといったことは見えなかったが、病児・病後児保育の議論で出たように、誰でも安心して働ける仕組みがあることや、そうしたことを市として保障するといった内容でよいのではないかと。運営に関しては、赤字になるようであればその制度ではやらないとなるだろうし、ハード面にお金をかけないのであれば、人や便利さにかけることになるだろう。その上で、PRしていくしかないだろう。</p>
副会長	<p>経営のことを言いたいのではなく、母親が困ることや先生や職員の確保などを含めて議論しないと、質も低下してしまうのではないかと。金額も決まらぬと制度として決められないし、母親も決められないし、来年4月からスタートできないとなれば困るだろう。</p>
委員	<p>計画骨子案は大切であり、私たちが走りながらやるべきことをやっていかないと、進まないと思う。9月までにやることはあるため、合わせながら進んでいかないといけないのではないかと。</p>

委員	<p>支援会議は、幼稚園や保育園だけではなく、保育園に入る前の0歳児のことや、小学校に上がった後のことなども話し合っていく会議だと捉えているが、ここ数回で偏っている心配があり、小学校の話や保護者側の話もできればと考えている。東大和市の特色を発言できる場であれば、委員はその立場でいろいろと話ができるだろうし、そういう会議だからこそ、我々がいるのだろう。補助金といったことを決めるとなれば、委員がかなり勉強しないと決められないし、そのような形で進んでよいのかと危惧している。限られた時間の中でどのように議論を展開し、どのようにフィードバックさせるのかを考慮して形にしていけないといけないのではないか。</p>
会長	<p>東大和市の子育てがこうあってほしいといったことを、忌憚なく言ってもらい、事務局で整理してもらうことになるだろう。走りながら部分的に修正が出てくるだろうが、基本的なスタンスとしては、そのようなことでよいのではないか。</p> <p>(休憩 10 分)</p>
委員	<p>この会議は、子育て全体について議論していければと考えている。こうなったら良くなるのではないかとの思いはあり、今回はそれが実現可能かどうかを聞けるのではないかと考えていた。必須事項を決めていかなければいけない時期なのだろうが、どのタイミングでそうしたことを話をしているのか。後で良いのであれば持ち帰って考えて、文章にできればと考えている。2時間の会議の中で、意見を聞く方が良いのか、宿題として委員が持ち帰り、その後に事務局が整理した方が良いのか、どのように進めて行ったらよいか。</p>
会長	<p>計画の第3章こそが、委員の知恵を拝借する重要な部分である。その後に調整があるかもしれないが、理想や夢でも構わない。たくさん意見を出してほしい。次回は、事前に事務局へ提出された意見があれば提示する形とし、今回は宿題という形で良いのではないか。</p>
委員	<p>同じ所得であれば同じ料金負担とあったが、事業者側は幼稚園でも保育園でも不安になる部分はあるだろう。事業者側へ市からの補助がはっきりすれば、事業者側も安心して次の段階に行けるのではないか。</p> <p>保護者側には園の知識が少なく、料金や時間で結果的に保育園を選ぶことにより待機児童が出ているのではないか。既存の施設の定員を上手に調整したり、幼稚園希望を的確に把握してやれば、待機児童もなくなるのではないか。私立幼稚園の情報を入手できるところが少なく感じる。健診時をうまく利用して、チラシやリーフレットを配るなどのPRに市も協力し、保育園か幼稚園かで迷っている保護者へ情報提供できれば、待機児童も解消できるのではないか。</p>
委員	<p>保護者の意見を聞くと、熱が出た時に看てもらえる病児・病後児保育への要望や、小学校に入学したら労働時間を短くしたということが聞かれる。障害児を受け入れてほしいという意見もあるが、人手不足から預かりたくても預かれず、市の方で対応してもらいたい。虐待等の問題があった場合でも、保育者として対応していきたいと考えているし、市や市民と一緒に考えていきたい。学童保育でも、年配の方が見ていてけがなどの問題があり、そういったところも考えていかなければならないだろう。</p>
委員	<p>今はインターネットで情報を集めたり、会合に参加したりと、積極的に情報を集めている母親は多い。ただし、情報が取れない母親へのバックアップは必要だろう。保育園は基本的に市内となるが、幼稚園は市外にも行けるため、その意味で幼稚園はシビアなのだろう。市内</p>

事務局	<p>の私立幼稚園へのバックアップは市でできるのか。また、市外の幼稚園に対する支援もあるのか。</p> <p>幼稚園が新制度に入らない場合、従来の私学補助である園への補助が残り、市も従来通り、所得に応じて保護者への補助を行っていくことになる。園が新制度に入ると、市から幼稚園に給付を行う一方で、保護者への補助はなくなる。チラシなどのPRに関しては、子育てハンドブックでの記載方法の変更を検討しており、一覧で記載するのではなく、詳細はホームページで閲覧してもらうか、実際に園に行ってもらうなどを促す工夫をしていきたい。PR不足も指摘されているところであり、改善していきたい。</p>
委員	<p>桜が丘地区の子どもで市外の幼稚園などに通う人が多い。理由は、距離の近さで決めているようで、そうした子どもを市内の幼稚園に戻すために、特典を設けられればよいのではないか。</p>
委員	<p>色々な立場や家庭があるが、東大和市にいればどんな家庭でも住みやすいまちとなればよい。周囲の環境が変わっても、安心して過ごして子育てできるまちであってほしい。経済的負担の平等性も実現していけたらよい。今後、量の見込みなどから予算が決まっていくと思うが、人材不足を解消してほしいし、親としてもしっかりした職員に見てほしい。また、耐震化を進め、人的環境と施設環境の両面を充実させ、それを保護者が感じられるようにしてほしい。</p>
委員	<p>第3章について、次世代育成支援計画を参考にして、可能な方はこの部分の文章を作成したらどうか。</p>
会長	<p>その部分は宿題とし、今回は冒頭からこの部分を始めたい。文章を作成するならば、事務局へ事前に送ってもらいたい。当日の発表でも構わない。</p>
	<p>4. 報告事項 (今後のスケジュールについては、議題の中で説明)</p>
	<p>5. その他</p>
会長	<p>今回は、7月28日の14時から行うこととする。</p>
事務局	<p>利用者負担において、同一の利用負担としても幼稚園と保育園では時間が異なるため、時間の短い幼稚園の方がトータルとして低くなる。また、児童館や学童保育所の耐震化は基準をクリアしている。</p>
会長	<p>以上で会議を終了とする。</p>